

第5回大阪府医師会 「メディカルカフェ」

大阪府医師会では、医療に関する身近なテーマを気軽な雰囲気ですぐ語り合おうと、平成27年度より「メディカルカフェ」を実施しています。今回は3月1日に開催し、「入院」をテーマに意見を交わしました。



病床数の維持・増加求める府民は75%



阪本理事

今回は、約20人にご参加いただき、開催に合わせて行ったインターネット調査（「病院の入退院に関する意識調査」1,200人対象／1月30日～31日実施）を踏まえて、「望ましい医療体制の在り方」などを模索しました。

進行は例年と同じく、「カフェマスター」に扮した阪本栄理事が務めました。話題提供として、日医総研ワーキングペーパーの資料を基に、諸外国との比較から日本の医療の現状を紹介しました。また、「病院の入退院に関する意識調査」の概要を報告しました。特に、日本の病床数については、「多い」と感じる意見は3割に満たず、今後の病床数については、「増やすべき」「現状維持」の合計で約75%を占めていると強調されました。

架空事例を基に入院医療を考える

続いて、4グループに分かれてグループトークを行いました。3つの架空事例を基に、国の政策による在院日数の短縮、急性期病院からの転院など、入院に対する府民の率直な思いを語り合いました。その後、各テーブルの意見をまとめがあり、総括で阪本理事は、国民皆保険制度の重要性を改めて強調。今後も様々な活動を通じて、かかりつけ医を持つことの重要性を国民に理解してもらえよう取り組んでいくとしました。

大阪府医師会では、今後も興味深い話題を取り上げ、対話を重視した「双方向性の広報活動」を進めていきたいと考えています。大阪府医師会の活動にご支援・ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

（報告：大阪府医師会広報担当理事 阪本 栄）